

## 6 林 業

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 林野火災について</p> <p>①林野火災の種類</p> <p>②延焼速度</p> <p>③林野火災の発生時期</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <p>○林野火災の防止</p> <p>一般に林野火災は、林床の落葉・落枝類や草本類などが燃える地表火、樹木の樹冠部が燃える樹冠火、樹木の幹が燃える樹幹火、地中の泥炭層等の有機物が燃える地中火の4種類に分類されるが、実際にはこれらが色々に組み合わさっている場合が多い。なお、日本での地中火の発生例は少ない。</p> <p>地表火の延焼速度は普通時速4～7kmほどであるが、強風時やのぼり斜面では、時速10km以上になる場合もある。</p> <p>樹冠火の延焼速度は、時速2～4kmほどであるが、強風時には時速15km以上になることもある。</p> <p>樹幹火は、樹幹から樹幹へと火が延焼することはなく、多くの場合地表火に伴って進行する。</p> <p>地中火は、空気の供給が少ない地中のため、火勢は弱く延焼速度も遅い。</p> <p>全国の林野火災数は4月が最も多く、発生数は年間の約20%となっている。また、2月から5月の発生件数は約60%となっており、この時期が林野火災の危険な時期といえる。</p> <p>なお、林野火災焼損面積も4月が最も多く、年間の約40%を占めていることから、大規模な林野火災が多いことがわかる。</p> <p>本県の年間の林野火災は、図1のとおりであり、2月から5月の発生件数は約65%であり、全国の状況と同様である。</p> <p>これは、降水量が少ないこと、空気が乾燥して季節風が強いこと、山菜採り等により入山者が多いこと等が影響していると考えられる。</p>

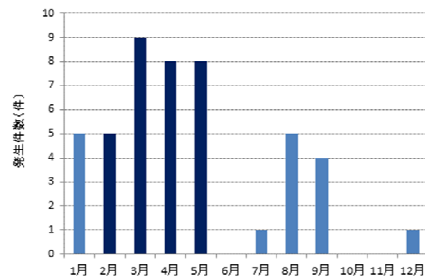


図1 林野火災の発生時期  
(愛媛県：H22～28)

④出火の原因

全国で発生する林野火災の出火原因は、たき火の不始末が最も多く、タバコ・マッチの投げ捨て等によるものがこれに次ぎ、この2種で出火原因の60%以上を占めている。また、落雷等の自然現象による林野火災はごくわずかである。

(2) 愛媛県の大規模林野火災の状況 (平成23~28年)

本県の過去7年間の1haを超える大規模な林野火災の概要は、表1のとおりであり、発生時期は、4、5、6、8月で、たき火や野焼きが原因となっている。

表1 1haを超える林野火災 (H23~28年 H27、28は無し)

年次	発生月日	出火時間	焼損面積 (ha)	焼損した林況等 (速報による)				出火原因
				出火箇所	林種	樹種	齢級	
26	6月3日	21:20	2.60	国有林	伐採地			たき火
25	8月10日	13:01	1.71	民有林	人	マツ	6	伐採した雑木の焼却火が延焼
24	5月22日	11:45	2.00	民有林	天	ザツ	42~53	たき火の不始末 (推定)
23	4月7日	14:14	4.68	民有林	天	ザツ タケ		畑で竹を焼却中に山林へ延焼

(3) 火災跡地復旧について

林野火災の被害が甚大になると、林地の条件次第では森林の再生が非常に困難になり、復旧するためには、多額の工事費と多くの労力、長い時間が費やされる (写真1~3)。



写真1 火災直後の様子



写真2 山腹緑化工の取組み



写真3 航空実播工

(4) 林野火災の防止について

林野火災の原因は、前述のとおり人為的なものがほとんどであるため、森林利用者1人1人が、たき火の後始末を完全にすること、タバコの投げ捨てをしないこと等林野火災に対して防火意識を徹底することが何よりも重要である。